

音 楽（器楽合奏）

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称	教科書名
17 教 出	中学器楽 音楽のおくりもの
27 教 芸	中学生の器楽

2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点	視点	方法
(ア) 基礎・基本の定着	① 題材や学習目標等の示し方	題材・学習目標等の表記の仕方及び学習目標達成のための支援の具体例
	② 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫	和楽器の取扱い方
(イ) 主体的に学習に取り組む工夫	③ 興味・関心を高めるための工夫	資料や巻頭の内容
	④ 和楽器の学習の扱いとその活用を図る学習活動の工夫	箏の学習展開の工夫
(ウ) 内容の構成・配列・分量	⑤ 教材の分量及び構成	楽器別カテゴリー別教材数, 合奏・アンサンブルのカテゴリー別教材数, 内容の構成
(エ) 内容の表現・表記	⑥ [共通事項] の指導を充実させる工夫	音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫
(オ) 言語活動の充実	⑦ 器楽分野における言語活動の工夫	音楽科の特質に応じた言語活動の具体例

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	①題材や学習目標等の示し方
方法	題材・学習目標等の表記の仕方及び学習目標達成のための支援の具体例

	題材の表記の仕方	学習目標等の表記の仕方	学習目標達成のための支援の具体例 (リコーダー「タンギング」の例)
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次ページに、「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」と示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リコーダーのページでは、見開きごとに「学びのねらい」を示し、教材曲ごとに、「学びのポイント」を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びのねらい <ul style="list-style-type: none"> ・「リコーダーの音色（おんしょく）と奏法との関わりを理解したり、タンギングや左手を使った基本的な奏法を身につけたりしながら表現しよう。」 ○ 学習目標達成のための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・「タンギングに注意して、♩=69 から♩=92 ぐらいまでのさまざまな速度で演奏しよう。」「『リズム de ゴー』を音を変えて演奏を楽しもう。」と示している。 ・タンギングの発音による音色の違いや、音の重なりによる響きの変化、楽器による音高の違いを実感できる学習活動を示している。 ・音域や音質による発音の図を掲載している。 ・同じ運指でソプラノ・リコーダーで演奏する場合について示している。 ・学びのねらいに対応した「まとめの曲」を設定している。
教芸	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次に続く学習内容のページに、三つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材を図示している。学習内容と各教材との関連度の大小を色の濃さで表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リコーダーの「アンサンブルセミナー」のページでは、見開きごとに「学習目標」を示し、教材曲ごとに、「活動文」を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動の内容を示す文 <ul style="list-style-type: none"> ・「息の出し方に注意しながらタンギングをしよう。」 ○ 学習目標達成のための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程①～④を示している。 ①まずは、「tu」と言いながら息を出す。次に、声を出さずに息だけを出す。 ②右の運指で、タンギングをして吹く。 ③細かいリズムで演奏する。 ④②と③を続けて吹く。 ・タンギングの発音による音色の違いや、楽器による音高の違いを実感できる学習活動を示している。 ・音域や音質による発音の表を掲載している。 ・同じ運指でソプラノ・リコーダーで演奏する場合について示している。

【音楽（器楽合奏）】

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	②器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫
方法	和楽器の取扱い方

		和楽器の取扱い方
教 出	配列等	○ それぞれの楽器を単独で、篠笛（5ページ）→尺八（2ページ）→箏（8ページ）→三味線（8ページ）→太鼓（6ページ）→の順に示している。
	内容	○ 各楽器の各部の名称，姿勢とかまえ方，奏法等を写真や図で示している。
	楽譜	○ 縦譜を4曲（「さくらさくら」「荒城の月」「六段の調」「もののけ姫」），参考楽譜として2曲（「さくらさくら」「こきりこ節」）掲載している。
	楽器ごとの 楽曲（鑑賞 曲も含む）	○ 篠笛「たこたこあがれ」「ひらいたひらいた」「さくらさくら」「子守歌」「祭囃子」 ○ 尺八「もういいかい」 ○ 箏「さくらさくら」「荒城の月」「六段の調」「さくら変奏曲」 ○ 三味線「さくらさくら」「長唄『勸進帳』から寄せの合方」
	合奏曲	○ 篠笛「一番星みつけた／夜空を見上げて」 ○ 箏「荒城の月」「さくらさくら」「こきりこ節」「もののけ姫」 ○ 太鼓「千の海響 望の章」
	その他	○ 「何が同じで，何が違う？」として，和楽器を含む様々な楽器の共通性と固有性を考えさせるページがある。
教 芸	配列等	○ それぞれの楽器を単独で，箏（10ページ）→三味線（6ページ）→太鼓（6ページ）→篠笛（4ページ）→尺八（3ページ）の順に示している。
	内容	○ 各楽器の各部の名称，姿勢と構え方，奏法等を写真や図で示している。
	楽譜	○ 家庭式縦譜を6曲（「虫づくし」「姫松」「『六段の調』から“四段”」「さくらさくら」「少年時代」「夏祭り」）掲載している。
	楽器ごとの 楽曲	○ 箏「虫づくし」「姫松」「『六段の調』から“四段”」「さくらさくら」「少年時代」「夏祭り」 ○ 三味線「こきりこ」「荒城の月」 ○ 太鼓「天高く鳴り響け」 ○ 篠笛「たこたこあがれ」「ほたるこい」「火祭りの踊り」「もののけ姫」 ○ 尺八「夕やけこやけ」
	合奏曲	○ 篠笛，締太鼓，長胴太鼓による「MATSURI」 ○ 三味線，大鼓，小鼓による『寄せの合方』によるリズムアンサンブル
	その他	○ 「楽しもう！和楽器の音楽」として，部活動を通して，和楽器の合奏に取り組んでいる中学生の様子を紹介している。

【音楽（器楽合奏）】

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	③興味・関心を高めるための工夫
方法	資料や巻頭の内容

	資料の内容	巻頭の内容
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「打楽器」, 「リコーダーの運指表」, 「ギター&キーボード コード表」, 「いろいろな用語, 記号」を掲載している。 ○ 「名曲旋律集」として, 名曲の旋律をソプラノ・リコーダー, アルト・リコーダー, 箏, ギターで演奏できるよう, 楽譜を10曲掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「さまざまな音色（おんしょく）や響きと奏法」と題し, さまざまな楽器の演奏写真, 演奏者名を掲載している。 ○ 口絵「With My Heart 音楽はメッセージ 心をこめて 中学生のみなさんへ」において, 箏と篠笛の地元からのメッセージと写真を掲載している。
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本音楽の楽器編成」, 「バンドの世界をのぞいてみよう」, 「リコーダーの運指表」, 「ギター/キーボード コード表」, 「楽器の図鑑」, 「音楽の約束」, 「楽しもう！和楽器の音楽」を掲載している。 ○ 「楽器で Melody」として, 名曲の旋律をソプラノ・リコーダー, アルト・リコーダー, 箏, 三味線, 篠笛で演奏できるよう, 楽譜を9曲掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ピアノで語るということ」と題し, 反田恭平（ピアノ）の写真と言葉を掲載している。 ○ 「音楽ってなんだろう？～楽器と人～」において, さまざまな楽器の演奏写真とともに, 音楽・文芸批評家の言葉を掲載している。

【音楽（器楽合奏）】

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	④和楽器の学習の扱いとその活用を図る学習活動の工夫
方法	箏の学習展開の工夫

箏の学習展開の工夫		
教 出	学習の流れ	○ 各部の名称→柱の立て方→爪→調弦法→姿勢とかまえ方→親指による基本的な奏法→「練習曲1, 2」, 「さくらさくら」→奏法<押し手>→「荒城の月」→音のスケッチ（「荒城の月」の前奏をつくってみよう）→箏曲（「六段の調」に挑戦!）→「さくら変奏曲」（鑑賞教材）
	基本的な奏法	○ 演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真を掲載している。親指による基本的な奏法について説明している。
	基礎的な奏法の活用を図る学習活動	○ 「音のスケッチ」として、平調子の響きを生かして「荒城の月」の前奏を創作する活動を設定している。 ・活動1 「『荒城の月』の歌詞の内容や、感じ取った曲想に合った表現をイメージして、2小節の前奏をつくろう。できあがったら弦名を記録しておこう。」 ・活動2 「前奏を1回繰り返して演奏し、それに続けて『荒城の月』を弾きながら歌ってみよう。」 ・活動3 「表現しなかったイメージをまとめ、発表しよう。」 ○ キャラクターのセリフで、学習した奏法の活用を促している。 ・セリフの内容→「前奏に押し手を取り入れてもいいよ。」
	楽譜	○ 縦譜と五線譜（音符の下に漢数字での弦名）の2種類を示している。
	資料	○ 「お箏（こと）の世界へ」として黒川真理のメッセージを掲載している。 ○ 鑑賞教材「さくら変奏曲（宮城道雄）」を掲載している。
	ページ数	○ 8ページ
教 芸	学習の流れ	○ 各部の名称→柱の立て方→爪→調弦→姿勢と構え方→基本的な奏法→「虫づくし」, 「姫松」, 「『六段の調』から“四段”」→いろいろな奏法→「さくらさくら」→「My Melody」（日本の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。）
	基本的な奏法	○ 演奏者を正面から見た角度と上から見た角度の写真を掲載している。親指、中指・人さし指による基本的な奏法について説明している。
	基礎的な奏法の活用を図る学習活動	○ 「My Melody」として、都節音階と律音階のどちらかを選んで旋律をつくる活動を設定している。 ① 1小節目をつくりましょう。 ② 1小節目を反復させて、2小節目をつくりましょう。 ③ 1～2小節目から変化させて、3～4小節目をつくりましょう。 ○ キャラクターによる吹き出しで、学習した奏法の活用を促している。 ・吹き出しの内容→「『いろいろな奏法』を参考にして、箏の音色を生かしてもいいね。」
	楽譜	○ 家庭式縦譜と五線譜（音符の下に漢数字での弦名）の2種類を示している。
	資料	○ 「遠藤千晶さんからのメッセージ」を掲載している。 ○ 「和楽器こぼれ話」を示している。
	ページ数	○ 10ページ

【音楽（器楽合奏）】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑤教材の分量及び構成
方法	楽器別カテゴリー別教材数, 合奏・アンサンブルのカテゴリー別教材数, 内容の構成

		楽器別							合奏・アンサンブル	内容の構成
		リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八		
教 出	クラシック音楽	13							5	① リコーダー
	日本歌曲	2		2					3	② 篠笛
	日本古来の曲			2	2		2		1	③ 尺八
	わらべうた						2	1	1	④ ギター
	日本の民謡								1	⑤ 箏
	世界の民謡（愛唱歌）	9	4						1	⑥ 三味線
	映画・ポピュラー音楽等		1						5	⑦ 太鼓
	その他・オリジナル等	5		2			1		6	⑧ アンサンブル曲集
	計	29	5	6	2	※	5	1	23	・Let's Play! ・Let's Try! ⑨ 名曲旋律集 ⑩ 資料 ※太鼓の教材は「アンサンブル」に1曲有り
教 芸	クラシック音楽	7							2	① アンサンブルセミナー
	日本歌曲	1								② リコーダー
	日本古来の曲			4	1				1	③ ギター
	わらべうた						2	1		④ 箏
	日本の民謡				1					⑤ 三味線
	世界の民謡（愛唱歌）	7	1						3	⑥ 太鼓
	映画・ポピュラー音楽等	4	1	2			1		7	⑦ 篠笛
	その他・オリジナル等	1				1	1		5	⑧ 尺八
	計	20	2	6	2	1	4	1	18	⑨ 打楽器 ⑩ アンサンブル曲集 ⑪ 楽器でMelody ⑫ 資料

【音楽（器楽合奏）】

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑥〔共通事項〕の指導を充実させる工夫
方法	音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫

音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫	
教 出	<p>○ 音楽を形づくっている要素の示し方</p> <p>○ 「合わせて演奏しよう」のページでは、曲名の下に、「主旋律と他の旋律との関わりを意識して表現を工夫しよう。」「拍子や速度などが生み出す雰囲気味わいながら演奏しよう。」等と示している。</p>
	<p>○ ^{しょうが}唱歌を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫</p> <p>○ ^{しょうが}唱歌の説明とともに、尺八、箏（こと）、三味線、太鼓の^{しょうが}唱歌の例を示している。キャラクターによるセリフで、「実際に^{しょうが}唱歌を唱えてみましょう。」と示している。</p>
教 芸	<p>○ 音楽を形づくっている要素の示し方</p> <p>○ 「アンサンブルセミナー」のページでは、見開き左ページ下に、学習内容に即した音楽を形づくっている要素を示している。</p> <p>○ 「アンサンブル」のページでは、曲名の横に「主旋律（A1）に対して、A2の旋律がどのように重なっているのかを考え、その効果を味わいながら演奏しましょう。」「旋律やリズムの特徴を生かした表現を工夫しましょう。強弱の変化や各パートの音量のバランスに気を付けて演奏しましょう。」等と示している。</p>
	<p>○ ^{しょうが}唱歌を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫</p> <p>○ 『六段の調』から“四段”において、^{しょうが}唱歌を歌ったり楽器を弾いたりしながら、箏の音楽の特徴を感じ取りましょう。」と示している。「^{しょうが}唱歌を歌ってみよう」では、歌うときのポイントを3つ示している。</p>

【音楽（器楽合奏）】

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑦器楽分野における言語活動の工夫
方法	音楽科の特質に応じた言語活動の具体例

音楽科の特質に応じた言語活動の具体例	
教 出	<p>○ 音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた器楽の活動</p> <p>・表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定</p> <p>○ 「合わせて演奏しよう」（音のスケッチ） 学びのポイント「楽器の音色（おんしょく）や響きを生かし、全体の構成を工夫しながら表現しよう。」 教材曲「不思議な旋律PART - 1」</p> <p>・「グループに分かれて基本形を演奏します。速度や強弱などは、グループで話し合って確認しておきましょう。」「基本形に慣れたら、オプションパート伴奏A～伴奏Dから選んで加えて演奏してみよう。旋律はアーティキュレーションを工夫したり、『ラ』や『ル』など声で表現したりしてみよう。」「基本形にオプションパートを加え、構成を工夫した形が仕上がったら、グループごとに発表してみよう。」と示している。</p>
教 芸	<p>○ 音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた器楽の活動</p> <p>・表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定</p> <p>○ 「曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう。」 活動文「アーティキュレーションを参考にしながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏しましょう。」 教材曲「聖者の行進」</p> <p>・学習過程が①, ②で示され, ②において「①で感じ取ったことをもとに、友達と話し合いながら曲全体のアーティキュレーションを決め, 2つのパートに分かれて演奏しましょう。」と示し, キャラクターの吹き出しで「長くのばす音にはどんなアーティキュレーションを使えばいいかな?」「アイデアを楽譜に書いておくと演奏に役立つね。」「アーティキュレーションを工夫すると, より表情豊かな演奏になるね。」と示している。</p>